令和４年６月27日（月曜日）

第89回

盛岡二

万華鏡無限の世界にみせられてもういっかいと光にかざす　3年　飯岡　美咲

かすみ目にB6ワークの文字がブレ二重に見える深夜十二時　3年　菊池　結衣

共に寝て共に映画を見たりして私たくさん友達いるの　2年　高宮　雛那

イーハトーブ短歌の風

県内高校生の作品から　吉田史子選　題「見」

中心の表現 具体的に

雨に濡れるアジサイが美しい季節。毎年目にする光景だが、今年のアジサイは今年だけ。季節の花を見て目と心を喜ばせたい。

1首目、万華鏡はくるくると回すたびに無限にさまざまな世界を描き出す。一度として同じ模様は現れない、その美しさに魅せられた飯岡さん。もう一回もう一回と光にかざし、果てしなく見ていたい万華鏡の魅力をシンプルに歌い上げた。3、4句目は漢字を交えた方が下の句の動作が際立つ。

2首目、菊池さんは夜遅くまで定期考査の勉強に取り組んでいたのだろう。B6とはB5の半分のサイズ。大学ノートの半分だね。目がしょぼしょぼして小さめのワークの文字が二重に見えてくる。詠み方は具体的で堂々としていて好感が持てる。「深夜十二時」というきっぱりとした体言止めも効果的。

3首目は心の中のつぶやきのような高宮さんの作品。初句は授業中の居眠り！　あるいは友達が泊まりに来たのかな。一緒に行動し、楽しく過ごす友達がいるのだが、どこか不安が混じり、そうではない何かを求めているようである。「たり」を一度だけ使用して他にも例があることを示し、下の句をぽつぽつとした幼い口調でまとめることで心の揺らぎを表現している。

歌の中心があいまいに表現され全体がぼんやりとした印象になっている作品が見られた。惜しい。「具体的」を心がけてね。

（県歌人クラブ副会長）

＝次回は山田、7月12日に掲載

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。